＜＜東北魂＞＞を鼓舞する
電子新聞

発行所　株式会社遊無有
〒 190-0013
東京都立川市富士見町 2-12-13　安藤ビルB１F
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up , TOHOKU !

無料

第 18 号

毎月発行

創刊 2013 年（平成 25 年）11 月 16 日　土曜日

2013 年（平成 25 年）11 月 16 日　土曜日

楽天優勝に学ぶ東北復興のあり方

楽天優勝でもらった勇気を東北復興にどう活かすか？
あり得なかった優勝をいかに勝ち取ったかを再度学ぶ
3シーズン思い続けた優勝の覚悟を学ばねばならない

想像さえしなかった「楽天の優勝」

3・11以降、ぱったりと明るいニュースが途絶え、腹立たしいニュースばかりだった東北被災地にとって、日本シリーズでの楽天優勝は何ものにも勝るプレゼントであった。

しかし、事前の下馬評で今シーズンの楽天の日本シリーズ優勝を予想する人はほぼゼロだったであろう。至極当然である。

大震災発生の一昨年、嶋選手の「見せましょう野球の底力を」のあいさつには、楽天ファンだけでなく、東北が一体となって感激してみな泣いた。しかし、そのシーズンはヤル気が空回りしての結果五位であった。

昨年は頑張ったけれども四位どまり。クライマックスシリーズにも参加できなかった。

そして今シーズン。あれよあれよという間に、パリーグ優勝、クライマックスシリーズで勝ち上がり、日本シリーズへ。そして七戦目の最終戦までもつれた。そこでは、通常はありえないことだが、前日一六〇球も投げた田中投手の連続登板で締めくくり、球史に残る奇跡的な勝利。いったい誰がここまでの展開を予想したというのであろう。

この結果は幸運だったからではない。幸運だけで優勝できるほどそんな生やさしい世界ではない。選手はもちろん、監督・コーチ、スタッフが一丸となって努力した結果勝ち取ったものである。それも並々ならぬ努力であり、三シーズンずっと継続した「気力」と「粘り強さ」、「負けない心」が引き寄せた結果である。

球団創設の実情

しかし弱小球団といわれた楽天が優勝を引き寄せたのには何か特別な仕掛けがあったはずだ。そうしたものなしで、創設わずか九年目の球団が優勝することは不可能と言ってよい。

思い出して欲しいのだが、創設初年度は三八勝九七敗一引き分けという惨憺たる成績であった。オリックスと近鉄の統合に始まった球界再編騒動の末、難産で生まれた新球団楽天は、当初非常に弱かった。

近鉄のほとんどの中心選手はオリックスに移った。新球団の戦力は、統合に反発した岩隈（現マリナーズ）ら近鉄の一部の主力以外は、分配ドラフトで獲得したオリックスと近鉄の若手や、他球団をクビになった選手だった。そうした状況から九年目に獲得した優勝であることを忘れてはならない。

東北と合体した楽天

楽天の選手たちは、3・11以降、練習と試合の合間を縫って、被災地の野球少年たちを数十回以上慰問し、交流している。当然だが野球少年だけとの交流ではない。避難所や仮設住宅などにいた多くの被災者たちとも交流したはずである。

そこで何を得たのか、選手たちは多くを語らないが、非常に濃密な心の交流があったはずである。TVから流れた慰問風景のなかでも、被災直後に慰問した選手たちの目には光るものがあったのを筆者は忘れない。

また、チームとしての慰問活動以外にも、個人でさまざまな支援活動を行ってきている。あるいは、野球少年たちをホームであるクリネックス球場に何度も招待して、さらに交流の密度を深めてもいる。

この間、他チームは当然必死に練習していた。

通常では、こうした野球以外の活動、しかもシーズン中の活動は選手たちの体調管理、練習の障害になるはずである。ある意味で大きなハンディキャップを背負うことに他ならない。

しかしこうした選手たちの積極的な被災地への関与が、被災地・被災者から絶大な感謝と感激で迎えられたことは想像に難くない。

そこから何が生まれたか。一体化などという領域をはるかに超えた真の交流が生まれたたはずである。

単なる慰問者でもなく、単なる野球選手、ヒーローでもなく、ともに悲しんでくれる人でもない。言葉を選ぶのがむずかしいが、大震災をともに戦う「同士」であろうか。

楽天優勝でもらった勇気をどう活かすか

優勝のあと、東北のファンの多く、被災地の多くで、「この優勝に勇気をもらった」との声を聞いた。

確かに、東北の楽天ファンに限らず、東北被災地の人々は、この優勝でとてつもない勇気をもらったことだろう。その点に異論があろうはずがない。

しかし、厳しい言い方だが、その勇気とは、「耐え忍んでいく勇気」にして欲しくはない。復興について、政府や行政サイドの対応遅れ、無理解や現地事情を汲み取れずに押しつけてくる決定などに耐えに耐えていくための忍耐にして欲しくはない。それでは事態が好転することには結びつかない。せっかくの楽天の選手たちの輝かしい成果に報いることはできない。

ぜひ、人を頼らず、今後十数年の長期にわたっても粘り強く、けっして泣き言を言わずに、【積極果敢に東北復興に挑んでいく勇気】に転換して欲しいと思う。楽天の優勝はそうした大転換にこそふさわしい。

「魂見せろ」を合言葉に！

この「魂見せろ」という言葉は、今シーズンの夏ごろから嶋選手が言い出した言葉と聞く。それがチーム内で共有されていった。この言葉は何かズシンと響き、心をえぐるようだ。優勝必達に全身全霊を賭けて望めと言うのと同じようだ。

また、「魂見せろ」とは、いまどきの野球選手が使う言葉にはとても思えない。昔流行ったスポーツ根性ドラマでも使わない。「根性」などという言葉よりずっと重く、命を賭けろと言っているように聞こえる。筆者にはこの言葉が、胸を切り開き熱く燃えたぎる心臓を見せろと聞こえてしまう。あまりにも土臭く、なんだか大昔の百姓一揆に参加するメンバーの気合の発声のようにも聞こえる。

しかし、この言葉を共有することから、99・9％あり得ない楽天のドラマが始まったのも確かだ。

東北復興でも「魂見せよう」

いま復興がなかなか進まないという現実がある。復興は十数年以上の難事業であることも事実である。

また夢を持てない復興事業などありえない。夢があるからこそ関係者も困難を乗り越えていける。

他方、いまの諸課題を解決していくのに、ありきたりの発想ではむずかしい。単なる夢想でもなく、大胆な計画を包含した実現可能なビジョンが必要である。

震災前からの諸課題だけにとらわれている復興事業は、たとえすべてが順調に進行したとしても、東北の被災者はじめ東北住民に幸福をもたらすものとはいえない。ぜいぜいが周回遅れで「旧に復す」にすぎず、将来の事業終了時には関係者を大いに落胆させることになるであろう。

このように、大荒海にこぎ出すような復興事業である。とても並大抵の努力で成し遂げられるような事業ではない。だからこそ何としても楽天の優勝に学ぼうと呼びかけたいのである。

楽天の選手たちに学ぶこと

- **一見無謀とも思える目標設定**---わずか創設9年目の弱小チームである自分たちの実力を知りながら、プロの厳しい環境のなかにあって、あえて無謀だと言われそうな大胆な目標設定をした
- **あきらめない**---被災地のために野球人である自分たちが出来ることは優勝しかないと目標に掲げ、3シーズンかけても達成するまで粘り強くあきらめなかった
- **復興をともに戦う**---東北復興の困難さに匹敵する自分たちの挑戦とは、日本シリーズでの優勝が最低条件と考え、それを取り込むことで被災地・被災者と東北復興を共有した
- **被災地といつも一体**---部外者としての野球選手の関わりではなく、どっぷり被災地に入り込み、被災者と状況を共有し、彼らと一体になり、もはや選手と被災者の関係をはるかに超えた
- **チーム一丸**---上記の途方もない目標必達ということで選手がひとつになった（2011・4・2の嶋選手のあいさつは一人で考えたのではない、選手みんなで考えた、それを共有し続けた）
- **「魂を見せろ」**---今夏以降、選手間で共有された「魂を見せろ」という合言葉で、二段・三段ロケットに点火し、目標達成に邁進した

東北復興に活かすアイディア

- **大胆な復興ビジョン設定**
  政府や行政など他人任せではなく、現状やここまでの経緯を考えるとビジョン策定など無理だとあきらめず、あえて常識では考えられないような、かつ被災者が自分たちで考える理想の復興ビジョンを作成し、積極的に発信し、実現に向けて走り始める
- **あきらめない・頼らない、泣き言を言わない**
  楽天の選手のように、3年もあきらめず、人に頼らず、厳しい局面になっても泣き言を言わない、かつ自分たちの実力のなさを嘆かないで、かつ目標を達成するまで粘り強さを失わない
- **被災地一体化**
  被災地がバラバラでは話にならない、まずはひとつになること
- **ネットワーク拡大**
  外部協力者を取り込み一体化して、大きな運動に盛り上げていく
- **「魂を見せろ」**
  「魂見せろ」を楽天から借用してメンバーの合言葉にする

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.

「埋もれた東北文化を掘り起こす旅」その⑥

「巨岩信仰を考える」

最初から神社だったとは思えない神社になる「前」があり、それは縄文起源の宗教遺跡ではなかったか

巨岩集積のなかの異様な神社 ―「十和田神社」

前回号（第17号）では青森の十和田湖に隣接する十和田神社を取り上げた。

この神社は一度参拝したらずっと記憶に残り、一生忘れられない神社である。

一般的に神社といえば、比較的平らな土地に立地し、玉砂利を敷き詰めた、きれいに整地され、ゆったりとした参道の両側には巨木が並び、洗練されたデザインの厳かな空気を醸し出す神社というイメージであろう。しかしここはずいぶん様相を異にする。

長く曲がりくねった狭い参道の左側は高くそそり立った大きな岩だらけで、かつその岩は人工の石垣なのか自然に石が割れて石垣様になったのか判然としない。二の鳥居、三の鳥居あたりでは、溶岩でできた巨岩が集まっている小山を回避し、拝殿への道は大きく右に曲がる。あとで参道をとってつけたような、とても窮屈な印象である。それでも拝殿までは驚くほどの異様さではない。

問題は、拝殿前を通り過ぎてから「占い場」という有名な場所にたどり着くまでの道がすごいのだ。

この「占い場」の伝説とは、前号でも触れたが、熊野三山で修行した南祖坊が十和田湖の主であった八郎太郎との争いに勝ち、新たな主となり、その後占い場で入水したという話である。

そこに至るには、途中まではある階段を登り、その階段が途切れたあとは巨岩と張り出した木の根だらけの道なき坂をこわごわと登り、平らなところに出る。それから湖の方に下っていくのだが、鉄の梯子を降りていかねばならない。その先にもさらに下り道があるが、現在は通行止めである。この周辺は、まるで巨岩の小山である。

「占い場」から戻って見た本殿の裏側に見える基礎は、溶岩性の巨岩である。またその周辺にもたくさんの巨岩が横たわる。

何という異様な姿の神社であろう。参拝を終えてからしばらく経っても頭から離れない。あらためて十和田神社とはどういう存在なのかを考え続けた。

十和田神社一巨岩

十和田神社　占い場登り道の巨岩

十和田神社　本殿基礎の巨岩

十和田神社　参道脇の神社より古そうな石垣

創建年の不思議

十和田神社の創建は大同二年とされている。前号でも紹介したが、伝承では、坂上田村麿呂が蝦夷討伐の必勝を祈願し日本武尊を祀って祠を建てたのがはじまりと伝えられている。

しかし、大同二年に坂上田村麿呂が蝦夷討伐のために十和田湖まで遠征してきたとはとても思えない。非常に奇妙で胡散臭い創建年であるといえる。

おそらくは、十和田神社は大同二年よりずっと古くから存在していたと思われる。それなのにわざわざ創建年を大同二年にしたとしか思えない。

大同二年（807年）は第一の扉にすぎない

前々号（第16号）で大同二年という年について考えた。そこからさらに一歩を進めると、大同二年とは、この年の前後の東北古代史を封印したばかりでなく、はるか超古代に至るまでの東北古代史全体に封印をした年でもあると思われる。

言い換えれば、この年の周辺を解明すれば東北古代史すべてが見通せるわけではない。東北古代史が未発掘のまま何層にも亘って地中深く眠ることを強制された年であり、その意味で、大同二年は、封印された東北古代史のほんの入り口であり、第一の扉であると考えた方がよいと思う。

歴史をどんどん遡っていけば、奈良、飛鳥、古墳時代があり、弥生時代があり、そして縄文時代がある。

十和田神社の巨岩だらけの姿を思い出すと、どうしても最終的には縄文に結びつくのだ。現に神社創建よりはるかに古そうな石垣も見いだせる。

霊的な場所

そもそも十和田神社はいつごろからあったのであろうか。あるいはその昔は神社という形ではなく、縄文古代からの霊的な場所として存在した可能性もあると思う。

超古代から人間は、霊的な場所は何度も利用するようだ。イギリスでも、いまから四千年から四千五百年前の遺跡であるストーンヘンジの時代に霊的な場所とされたであろう同じ場所に、ずっと後代に至ってキリスト教会が建造されている例がある。したがって、仮にその教会を掘り起こしたならば、超古代の遺跡が出現するであろう。

この十和田神社も、まるで、超古代の遺跡の上に神社をかぶせたという表現がぴったりくる印象である。

詳細な調査をしたわけではないので断言はできないが、この可能性は今後も追及していこうと思う。

また、十和田神社はじめ東北の古代からあると思われる神社も、最初から神社ではなく、超古代の遺跡だったのではないかとの仮説もあわせて追及していきたい。

巨岩信仰

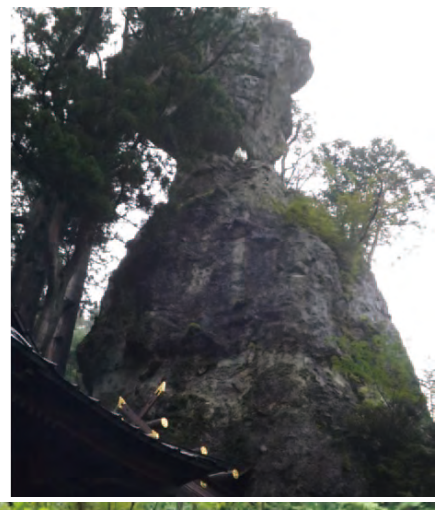
巨岩信仰ははるか古代には確かに存在したようだ。その観点から十和田神社に巨岩信仰が存在したと仮定しても無理はないと思う。

また、巨岩だらけの異様な神社ということでは、群馬県にある榛名神社も引けを取らない。そこも巨岩だらけである（写真参照）。

そして群馬近辺も縄文文化遺跡が多い。

世界的にも巨岩信仰はあちこちに存在した。またこの巨岩はみな「花崗岩」だという。この「花崗岩」に含まれる石英の振動の音を、感覚が鋭敏な古代人は聞いていたのかもしれない。

榛名神社　本殿入り口の巨岩



榛名神社　御姿岩

榛名神社　参道脇の巨岩

榛名神社　何かの頭部に見える

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.

第１回 三陸酒海鮮会
日本橋・人形町開催
オーナー手料理で大満足
（「旬味　ささや」 10/22）
次回 12/5 開催予定

この【三陸酒海鮮会】も、この一〇月からは渋谷・焚火家さんでの開催に加えて、日本橋人形町でも開催することになりました。

基本スタイルは渋谷開催と同様で、被災した三陸の海産物を素材にした料理と三陸おいしい日本酒をたらふく飲んで、三陸復興を支援するという「ゆるーい」支援の形です。

今回初開催の日本橋・人形町の「旬味　ささや」さんは、筆者も以前何度かおじゃましたことがある小料理屋さんで、地下鉄半蔵門線・水天宮前駅から徒歩三分ほどのところにあります。

オーナーの佐々田さんは、もと証券会社の役員をされておられた方で、一念発起されて、一年ほど前にこのお店をオープンされ、息子さんと二人三脚で運営されています。

料理は、このオーナーの佐々田さん自らがご担当されますが、何でも手早く出て来て、しかも「のんべー」向きの酒の肴ぴったりの料理。知らず知らずにお酒が進んでしまいます。

またここの日本酒のライン ナップがすごく、全国各地の銘酒が揃っていて、めったにお目にかかれないようなお酒も揃っています。

そうしたお店なので、三陸の日本酒を飲もうというこのイベント企画にご協力をお願いしたところ、即決でお受けいただいた経緯があります。

また、佐々田氏は、証券会社勤務時代、宮城県はじめ東北各地に勤務したこともあり、震災前の三陸の沿岸被災地にはよく行っていたというし、取引先や知人もたくさんおられるということで、三陸復興の手助けになるならばと快く引き受けていただきました。

初回の今回の参加者には証券関係者も多かったですが、今後はぜひ分野を問わず、参加者のすそ野を拡大していきたいと思います。

また今回が初回ですが、次回は一二月五日（木）、今後ほぼ一―二カ月の間隔で定期的に会を重ねていく予定です。

「旬味 ささや」
〒 103-0013
東京都中央区
日本橋人形町
2-16-4
池田ビルＢＦ
TEL
03-6661-7909
地下鉄半蔵門線、水天宮前
徒歩３分

第二回開催
12月5日(木)
19：00開始
貸切、定員20名

カウンターも満席

お酒の一部

ホタテと鯨の刺身でどんどん酒が進む

店内満席

空っぽ寸前になる前の冷蔵庫

第４回 三陸酒海鮮会
渋谷・焚火家開催
（10/26）
４回目も盛況
次回は 12/21（土）予定

【三陸酒海鮮会・渋谷】は一〇月二六日（土）に無事開催できました。

早いもので、初回が四月、二回目が六月、三回目が八月ときての第四回目でしたが、ここまでほぼ二カ月の間隔で開催してまいりました。今後も二カ月間隔で継続し、次回は一二月二一日（土）を予定しております。

開催日直前には、台風27号、28号の二つの台風が関東に上陸する可能性が大きいという情報があり、参加予定者の方々も大分心配されたようでした。しかし、何とかスレスレのところで回避できました。ひとえに参加者の三陸の復興を願う気持ちが勝ったものというべきでしょうか。

また、一〇月は例年であればとっくにカキシーズン突入となるところですが、今年の三陸は産地によりカキの出来がバラバラです。総じて、まだ生育が十分とはいえず、小粒なところが多いようで、ぷりぷりのカキになるまではもう少し時間がかかるようです。そんなことで、カキに代わって今回はホタテをご提供いたしました。

カキ生育不良の原因は夏の異常な暑さと言われております。さらに、【三陸酒海鮮会・渋谷】を回避した台風は、不幸にも三陸の養殖カキを落下させてしまった場所もあるようだとの情報も寄せられております。

カキの養殖業者のみなさんにとっては、３・11から二年七カ月経過し、ようやく復旧して収穫量も増えてきたところにこのたび重なる打撃です。この窮地をしのいでいただきたいし、三陸酒海鮮会もできる限り支援していきたいと思います。

次回はきっとおいしくプリプリした三陸カキをご提供できるもの思います。ぜひご期待ください。

次回：12月21日（土）
16：00開始―焚火家・渋谷

盛り上がってます！

全員カメラ目線

ホタテ鍋

ホタテカイヒモ

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.

東北楽天日本一に寄す

球団設立当初からは想像もできなかった日本一

東北楽天ゴールデンイーグルスが、球団創設九年目にして初のリーグ優勝を成し遂げ、そしてクライマックスシリーズを勝ち抜いて日本シリーズに出場、セリーグの覇者、東京読売ジャイアンツを四勝三敗で下し、初の日本一に輝いた。

振り返れば、まさかこんなに早く日本一になるとは思いもよらなかった。プロ野球球団が東北にできるということで喜んだのもつかの間、シーズン一年目は三八勝九七敗一分で、その年リーグ優勝したソフトバンクからは実に51・5ゲームも離された。勝率二割八分一厘は、一流のバッターの打率よりも低いなどと嘲笑まじりに揶揄されたものである。私自身は「何とか一〇〇敗しなくてよかった」と思ったことを覚えている。

オリックスブルーウェイブと近鉄バッファローズの合併に伴って、プロテクトのかかっていない、いわば「いらない選手」ばかりが集まったチームという経緯があり、期待度が低くても当然、それでもとにかくよくぞ仙台に来てくれた、と私を含め地元では感謝の念の方が大きかったように思う。何より東北は「判官贔屓」の土地である。「判官贔屓」の語源となった、奇跡的な活躍をしながら実の兄に追われ、平泉で悲劇の最期を遂げた源義経に対するシンパシーは今も強い。東北はそもそも、弱いものに温かいのである。

下馬評を裏切らず、一年目、二年目は最下位に沈んだが、五年目に野村克也監督の下、二位に躍進し、クライマックスシリーズに進出した。この時も感慨深いものがあった。この年、五年前に「いいとこどり」をしたはずのオリックスは何と最下位に沈んでいたのである。その一方での東北楽天の二位は、「ダメと言われたヤツだって、やりようによってはちっともダメじゃないんだ！」というメッセージを力強く訴えてくれたと思う。

被災者のために勝ち取った日本一

それにしても正直、今回の日本シリーズにおける東北楽天は、常軌を逸していた。第五戦で完投勝利したばかりの則本が第七戦で七、八回を投げ、挙句には前日一六〇球を投げた田中が九回のマウンドに立つ。中継ぎ陣が打ち込まれたとは言え、およそここ最近の投手起用のセオリーからは明らかに逸脱している。メジャーリーグでは今世紀に入ってから一五〇球以上投げたピッチャーなど皆無だそうである。たいていは一〇〇球前後で交代で、ノーヒットノーランなどの記録が掛かっている時だけ投げ続けることがあるとのことである。

何がそこまで彼らを駆り立てたのか。もちろん、初の日本一に向けて遮二無二のことだったことは分かる。では、何のための日本一だったのかと考えると、決して彼らは自分たちのためだけに日本一を目指したのではなかったのではないかと思う。インタビューに答えた星野監督の言葉にもあったが、今も大震災からの復興途上にある被災者を少しでも力づけられれば。彼らの思いはまさにそこにあったのではないだろうか。その思いが強く伝わってきたからこそ、最後のあの場面に東北の皆は大いに歓喜し、涙したのである。

特に何と言っても田中である。シーズン中一度も負けることなく24の勝ち星を積み上げて東北楽天のリーグ優勝に貢献し、「絶対エース」とも呼び習わされた彼が、第六戦では四失点という今季一度もなかった事態を招いた。それでも田中は、星野監督が勧めた降板を断固拒否し、最後まで投げ抜いた。九回表は最後、逆転タイムリーを打たれた高橋由伸を渾身のストレートで空振り三振に切って取った。

思えば、結果的に負けながらも最後まで投げ抜いたあの気迫が、次の日の東北楽天の先制攻撃につながったようにも思えた。実は私は不安だった。「絶対エース」で一気に日本一を奪取する心積もりだったところがまさかの敗戦。不敗のエースの敗北で東北楽天のチームの士気は下がり、第七戦は一方的に敗れてしまうのではないか、とさえ思った。

しかし東北楽天の勇者たちはそうではなかった。美馬が素晴らしい好投をし、則本も好救援。打線も四回までに三点を奪った。そしてあの九回の田中のマウンド。普通に考えればどう見てもベストなコンディションであるはずがない。前日一六〇球を一人で投げ抜いたばかりなのだ。事実、降りしきる雨の影響もあったのかもしれないが、無敗を誇ったシーズン中の絶妙な制球力は影をひそめ、得意のツーシームが大きく外れる場面もあった。

にもかかわらずストレートは150㎞に達し、ピンチは招いたものの最後は代打の切り札矢野を空振り三振に仕留めたのである。前日の負けを乗り越え、勝利を、そして日本一をもぎ取ったあの姿がどれほど東北の人を勇気づけ、奮い立たせたか知れない。

天下分け目の戦いとなったこの第七戦で、勝利を呼び寄せる、決定的な三点目を叩き出した牧田のホームランも素晴らしかった。牧田は実は、球団設立当初から東北楽天に在籍する、いわば「いらない」と言われた選手の代表なのである。その牧田が、あの場面で王者ジャイアンツからホームランを打つというのも何か強いメッセージを感じる。本当によくぞ打ってくれたものだと思う。

チーム名に「東北」があることの強み

今回東北楽天が日本一に輝いたことに際し、チーム名によくぞ「東北」の名を冠してくれたものだとつくづく思う。もちろん、本拠地は仙台にあるわけだが、プロ野球全12球団のうち、本拠地の人口を都道府県単位で見ると、宮城県は最も少ない二三二万八千人である。広島カープが本拠地を置く広島県はその次に少ないが、それでも二八四万人を擁しているのである。そのことも、チーム名に「宮城」または「仙台」を冠しなかった理由の一つであったのかもしれないが、ともかくチーム名に「東北」とつけてくれたことは今思えば、楽天のプロ野球球団が来てくれたことの最大のメリットだったと言えるかもしれない。

本州の実に約三割を占める広大な面積を持つ地域が一つにまとまっているのは、東北ならではのことである。もちろん、北海道は当初から一つの地域だが、面積的に東北と同規模の中部地方は北陸、甲信越、東海という地域からなり、必ずしも一つにまとまっているようには見えない。もしプロ野球球団がこの地域に来たとしても、「北陸」、「甲信越」、「東海」という名前は冠せても、「中部」という名前はつけにくかったのではないかと思う。

そしてまた、以前ここに書いたことがあるが、東北は元々、高校野球で自分の県だけでなく、同じ東北の他県も応援するという土地柄である。その一点を取っても、東北に住まう人たちにとって、東北の各県は同じ地域の中にあるとの認識が強いことを感じさせられる。今回の東北楽天の日本一を仙台、あるいは宮城県だけではなく、東北全体で一緒に喜べたことは本当に何よりもよかったことだと思う。

プロスポーツの頑張りに報いるには

スポーツで被災地を勇気づけるということでは、震災のあった二〇一一年のベガルタ仙台の頑張りも決して忘れることはできない。東日本大震災が発生した3月11日は、ベガルタ仙台にとって、実にホームでの開幕戦の前日であった。東日本大震災では、外国人選手が一時帰国あるいは退団したり、避難所生活を強いられる選手が出たりと、チーム自体も大きなダメージを受けた。そのような中、チームは実に開幕から一二試合無敗（六勝六分）というJ1記録を打ち立てた。これはあの震災直後の過酷な状況の中、「決して負けない」というメッセージを強力に伝えてくれたと思う。

東北楽天と言い、ベガルタと言い、つくづく、スポーツというものはその見る人々に強いメッセージを送り得るものだということを実感する。東北楽天もベガルタも、いずれもチームも被災者を勇気づけ、励ますために、これ以上ない働きをしてくれた。その恩に報いるには、とにかく何年掛かっても、どんなに困難でも、自分たちの復興を飽くことなく成し遂げる以外にはないだろう。復興が成って初めて、東北楽天の選手たちも、ベガルタの選手たちも、自分たちの働きが東北の復興の一助になったことを思い起こし、喜んでくれると思うのである。

写真は、友人の佐藤尚太氏が撮影したものである。第七戦のまさに最後、田中が空振り三振を奪って日本一を決めた瞬間のパブリックビューイングの様子である。

前日の第六戦では、日本製紙クリネックススタジアム宮城正面で行われていたパブリックビューイングに一万人を超える観客が集まり、安全確保のために入場制限まで行われた。この日の第七戦では、球場に隣接する仙台市陸上競技場に場所を変更してパブリックビューイングが行われた。

球場には二万五千人を超える観客が集まったが、球場の外でもたくさんの観客が一緒に応援していたのである。

佐藤氏は言う。

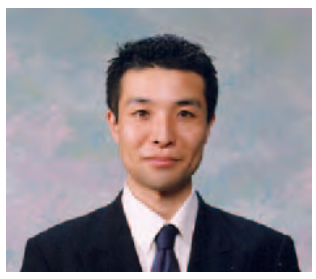
「あの瞬間、写真の通りKスタ宮城に隣接する陸上競技場で迎えておりまして。六、七戦はチケット持たず新幹線に飛び乗り、仙台へ行きましたが、最終決戦は多くの仲間と盛り上がりたいなと思い、あえてPVでの観戦を選択しました。東北の人々が待ちに待ったこの瞬間。野球に興味がある人もない人も、一つになったと実感しています。

楽天イーグルスの日本一はもっと時間が掛かるのではないかと思っていましたが、創設一〇年経たずに達成できたのは本当に素晴らしいことです。来年はみんなで勝ち取ったペナントがなびく中、野球が見られる事が物凄く幸せです！」

佐藤氏は、九年前の球団創設の折から、誰よりも情熱を傾けて応援をし続けていた。この日も東京から駆け付けてくれた。今回の日本一は私以上に感慨深いものがあったに違いない。

執筆者紹介

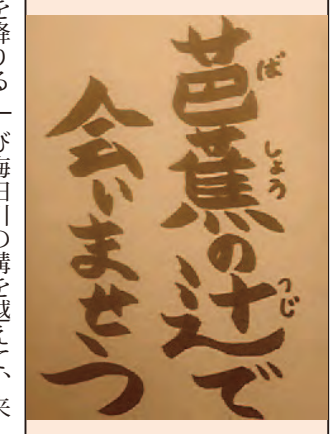
大友浩平
（おおともこうへい）
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
http://blog.livedoor.jp/anagma5/



Facebook
https://www.facebook.com/kouhei.ootomo

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.

連載
むかしばなし



第六話
国衡の声

玉手崎の高台森を降りるや否や、一行三十人近い男達の大半が、バラバラに散って離れ始めた。私達は車両へ戻る、と彼らは異口同音に言うのだった。山中で目の当たりにした異様な出来事に、これ以降の山入りへの気力を削がれたようである。しかし芭蕉ももはや、彼らに無理強いする気にはなれないようであった。

「坊さんや、もし俺方が帰れなくなったら、お前さんをどうしてやるべか、客車で協議しておくからのう。」

ある者はそう言って、再び梅田川の溝を越えて、来た道を南へ戻ってゆくのだった。

芭蕉の元に残ったのは、宮澤賢治に今純三、そして佐々木喜善、他青年、壮年四人、高齢だが頑健そうな男性一人の計八名である。

芭蕉はしゃがみ込んでしまった。

「この山に既にあのような妖力ありとは予想外、不覚でした。とは言え、たまたまこの山だけかも知れないのですが・・」

残った者の一人、盛岡の喫茶店経営者という大寺太能が言った。

「しかし、もし六つの山全部に何かいるのだとしたら、僕らが石を置くとかするまでもなく、仙臺というのは只ならぬ場所という事になりますな。」

宮澤賢治が頷く。

「となると、それらの場所に石を置くという事自体、更に思いがけない状況を招く可能性もなくはないですね。」

芭蕉が立ち上がる。

「それでも、行くしかありません。いずれにしてもこの人数では分散は危険です。頼朝が多賀城に入るのは明後日。拙僧一人でも明日までには終わりましょう。皆さんは車両でお待ちになって頂いて構いません。」

佐々木喜善、進み出る。

「先程、仕舞まで同行せよと仰せではなかったですか。私も、この先更に妖怪山人に出会えるなら是非と思っていたのですが。」

「しかし佐々木さん、娘さんがご心配でしょうし、ご自身のお身体も」

喜善、既に歩き出している。

「ある語り部の婆様が云うには、私共父娘が揃って病身なのは、何か途轍もない力を私共が身体に持っていて、その力を封じるための病なのだとか。よもや、本気には致しませんでしたが。」

台原周辺には民家や生活作業の跡が多く見られるが、余程鮮やかに避難を済ませたものか、人の姿は全くない。それにしても、人々はどこへ消えたのだろうか。

今純三が画板を構え鉛筆を走らせて、民俗の詳細を描き留めようとして、幾度も置いて行かれそうになるので、助手の如く青年が一人傍に付いた。水沢の銀行員・守隅全克である。

「実は僕も彫刻を目指しましたが、東京にも行けず美術学校にも入れず、諦めたのです。」

純三、スケッチを続けながら応える。

「僕だって学校なんか行ってないし、おまけに青森じゃ先生も無し、画材すらろくに無しだよ。」

「どうしてそれで続けられるのです。」

「それで諦められるなら、芸術家ではないのだと思う・・おっと、一行を見失うぞ。」

台原丘陵の西部は起伏の激しい地形だが、樹々の伐採がかなり進んでおり、見通しが利いた。西に伸びる梅田川の溝をここで越えて、いよいよ第二の目的地、青葉神社が建つ事になる北山丘陵に近づく。

「戊辰の戦で青葉城が占領されて、政宗公の御霊が城からこちらへ移されるのですが、もともとここは東昌寺があって、町作りの基点として最重要の高台だったのです。」

説明しながら森へ入ってゆく芭蕉に、喜善は訊く。

「芭蕉さんはどの時代の方なのですか。」

しばし間があり、かなり古いです、皆さんより何百年も、と返答がある。

ほう、政宗公の時代？いや、もっと。南北朝とか？もっと。ああ、まさに今この時代ですか。いやいや、もっともっと。

えっ本当に？皆、驚く。相当、昔の人らしい。どの時代を指しても、もっともっと、と返すだけなので疑わしくなり、喜善は宮澤賢治へ向き直る。

「賢治さんはどちらで芭蕉さんと知り合われたのですか。」

少し登ったところで、賢治は振り返って、樹間から見下ろせる南の平野を指した。

「ここからやや南東、愛宕の山までの一直線上にあるのが、芭蕉の辻です。謂わば、六角の臍。私共が出会ったのは、まさにそこでした。」

＊

藤原泰衡は宙に目をやった。

「もう昼だな。頼朝も山を越えたかも知れぬ。」

長里国八郎、静かに応ずる。

「国衡様の身が案じられますな。」

「そうだ。うまく逃げてくれればいいが、兄は逃げまいな。」

それを、山浦琴洋が無遠慮に打ち消す。

「どうですかのう。敵方の記録には残る事になりますぞ。柴田まで馬で逃げたところ追い詰められ、弓で射られて泥の田んぼへ落ちたとか。」

「山浦さん！」

長里が制止しようとするが、どうもこの男、やめる気配がない。

「兄上殿はまだいいかも知れん。指令系統を失うた奥羽軍は総崩れ、泰衡殿は度を失うて、平泉に火をかけて北へ逐電・・・」

「やめんか！」

高齢に似合わぬ長里の強靭な怒声が陣幕に反響した。場は静まり返り、泰衡は冷徹な眼差しを肥えた未来人の顔へ注ぐ。山浦はフッと不敵に笑い、尚も放つ。

「まあ、この上もなく悲惨なる末路、それが泰衡殿のお選びになる奥州藤原氏の幕引きでがんすよ。」

泰衡の、屈強の側近がゆっくり立ち上がり、太刀を引き抜いた。泰衡が制する。

「控えよ、五郎六郎。」

「許さぬ・・・」

太刀が振り上げられたその時、山浦の手が懐へ飛び込み、次の瞬間、グァン！という爆発音が鳴り響いた。武人はひっくり返り、泰衡ともう一人の側近も飛び退いて身構える。

山浦の手には黒い鉄の輝きが認められた。

「山浦さん・・なしてそんな物を」

長里は驚愕し、その右手に握られた自動拳銃を見つめる。陣内に、火薬の臭いが立ち込めた。

「これが八百年後の兵力。試作品だが実にいい塩梅だで。弓矢だの刀剣だの、全く敵ではない。当たれば頭が粉々に飛び散るのだ。」

四方の陣幕が勢いよく捲られ、裂かれて轟音を聞きつけた武者達が踊り込んできた。五郎六郎に向けられていた銃口が泰衡の方へ動き、ぴたりと止まった。

「下がれ兵ども。藤原御館泰衡公はこの山浦琴洋の配下となられた。」

包囲した男達はどよめいた。山浦が再び、空へ向けて引き金を絞る。

「わしは軍都・盛岡に最新兵器を売り込んできたところでのう。我が商品を以ってすれば戦況は変わる。さあ泰衡殿、今からでも遅くはない。奥羽中の兵力を掻き集め、態勢を立て直すのじゃ。」

「その銃一丁で何が変わると言うのか。愚かな真似は止しなさい、山浦さん。」

山浦が振り向きざまにも発砲し、長里の足元の腰掛を吹き飛ばした。

「既に歴史は変わり始めておりますぞ、長里先生。」

拳銃の銃先を振り、長里を泰衡のいる辺りへ促した山浦は、

「さあ、お前もだで、娘。」

と、座ったままの若にも命じた。ところが、少女は一向に応じようとしない。

全く微動だにせず、恐怖で硬直しているのかと思うと、その顔は美しい石像のように無表情で、瞳もまた何も見ていないようだ。

ほぼ正面に向かい合う泰衡は、はっとして少女を覗き込むようにし、少し身を乗り出した。しかし山浦の銃が若の足元の地面を撃ち、土埃が上がる。

「聞こえぬかぁ、娘！！」

それでも全く反応がない。が、一度小さなしゃっくりが、少女の身体を動かした。そして、遂に口を開いたが、その声を聞いて山浦含め、その場に居合わせた誰もが凍りついた。

「それにしても、凄まじき光景よな・・どうじゃ」

それは、少女のものではない、太い丈夫の声だった。泰衡が思わず、洩らした。

「兄者・・・」

＊

西木戸太郎こと藤原国衡はそれより数時間前、その日の早朝にその言葉を発していたのである。

「見よ・・平野一面の、坂東以西、大和の国の武者どもぞ。」

大河・逢隈川と巨大な壁・阿津賀志山との間に設けられた要害は、見上げれば威圧的に高く、見下ろせば身が縮む程に深い、且つ長大な防塁であり、頼朝の十万人もの大兵力が殆どその先に踏み出す事ができぬまま、開戦三日目を迎えていた。前線大将国衡はもう丸二日、山の頂から伊達の大平野を埋め尽くす軍団を眺め、東の防塁へ降りては馬で駆け巡って弓隊を励まし、西の山林に入っては樹間に潜む伏兵らと無数に散りばめられた罠を確認してきた。

しかし三日目には頼朝も動かねばなるまい。とすれば、西の阿津賀志山背後の大山林。山の民兵が守る樹海地獄でいかに犠牲を重ねようとも、十万の勢いで必ず突破してくるだろう。

「さて・・どう皆を上手く逃がそうか。しかしこ奴ら、逃げまいな。」

数時間後、佐々木若がその声を受け止め、弟へ伝える事になるのであった。

＊

次回予告：奥羽に芽生えた男の野望は頼朝の大軍を揺るがすのか？急げ、芭蕉。あと、マタギ小僧！

奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出没し演奏する。フィドル（ヴァイオリン）担当。

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.

シリーズ　遠野の自然
「遠野の祭り②」
遠野 1000 景より

今回は「遠野の祭り」の二回目。前回同様、遠野の自然や風物のなかに溶け込む祭りが浮かび上がるような写真を掲載した。

◇

いま日本中で祭りブームである。しかし、そもそも「まつり」とは何だろう。普段何気なく使っている言葉ではあるが、あらためてその意味を問われると答えに窮してしまう。そこですこし「まつり」について考えてみよう。

まず、「まつり」は世界中にあるが、世界は広すぎるので日本に限定する。それでも「まつり」に込められた意味は広く、深い。

漢字で「祭」と書くが、「まつり」や「まつる」という古語が先であり、その後、漢字の流入により「祭り」・「奉り」・「祀り」・「政り」・「纏り」などの文字が充てられ、その意味も分かれているようだ。

◇

「祀り」は、神・尊（みこと）に祈ること、その儀式を指すという。神職やそれに順ずる者などが行う「祈祷」や「神との交信の結果としての占い」などであり、「神社神道」の本質としての祀りでもある。またこの祀りは神楽などの巫女の舞や太神楽などの曲芸や獅子舞などもある。その起源は古神道などの日本の民間信仰にもあり、古くは神和ぎ（かんなぎ）といい「そこに宿る魂や命が、**荒ぶる神**にならぬよう」にと祈ることであり、それらが、道祖神や地蔵や祠や塚や供養塔としての建立や、手を合わせ日々の感謝を祈ることであり、また神社神道の神社にて祈願祈念することも同様であるという。

「祭り」は命・魂・霊・御霊を慰める慰霊。「祭」は、漢字の本来の意味において葬儀のことであり、現在の日本と中国では祭りは正反対の意味と捉えられているが、慰霊という点に着眼すれば本質的な部分では同じ意味でもあるという。古神道の本質の一つでもある先祖崇拝が、神仏習合して現在に伝わるものとしてお盆があり、辞書には先祖崇拝の祭りと記載されているとのことである。

「奉り」は、「たてまつる」であり、献上や召し上げる・上に見るなどの意味がある。日本創世の神々や朝廷や公家に対する行為を指し、「尊（みこと）」に対する謙譲の精神を内包した「まつり」とのことである。

「政り」は、古代、祭祀を司る者と政治を司る者は同じ意味で、この祭政一致であり、政治のことを政（まつりごと）とも呼んだことによるという。

「以上ウィキペディア抜粋」

◇

掲載した写真は、これらの分類でいえば、**「祀り」**や**「祭り」**にあたるのだろうか。上記の定義はなるほどと思うが、実際には渾然一体となっているのが、実際の姿ではないだろうか。

そうした意味において、これらの写真に写った祭りは、命・魂・霊・御霊を慰める慰霊のようでもあり、**【荒ぶる神】**にならぬようにと祈る姿にも見える。

理屈抜きの古代からの信仰が長年継承され、そこに生きているのを感じる。

鎮守の祭り　6 月 22 日」

しし踊り奉納　早池峰神社

流鏑馬

神前

奉納　南部囃子

しし踊り　9 月 15 日

お通り

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.

東北地ビール紀行

その④　秋田県篇

地産地消を意識した地ビールづくり
県内 3 醸造所も連携してイベント参加

by 大友浩平

「ビアカフェあくら」は秋田市の中心部にある

東北で岩手県に次いでホップ生産量が多いのが秋田県である。その秋田県には現在、地ビール醸造所が三箇所ある。まず、県庁所在地の秋田市にはあくらビール（秋田市大町 1-2-40、TEL018-864-0141、http://www.aqula.co.jp/）がある。元はドイツスタイルを基本としたビールを醸造していて、私もその頃からずっと愛飲していたが、現在は醸造長の長谷川さんがカテゴリーにとらわれないスタイルを追求し、さまざまなクラフトビールを醸造していて、全国各地の地ビール愛好家からの評価も高い。特にホップの選び方、使い方に特徴があり、飲めばすぐあくらのビールと分かる個性を作り出している。醸造所のあるあくらフォースクエアには、「ビアカフェあくら」と「ビアレストランプラッツ」という二つの直営の飲食店があり、どちらでも地元の食材を使った美味しい料理と一緒に出来たてのあくらビールを味わえる。何よりこれらあくらビールが二時間飲み放題で二一〇〇円というのは直営店ならではで、地ビールのない仙台にいる私からするとうらやましい限りである。

秋田県内には他に、田沢湖周辺に二箇所の地ビール醸造所がある。その一つ、田沢湖ビール（仙北市田沢湖卒田字早稲田 430、TEL0187-44-3988、http://www.warabi.or.jp/beer/top.php）は秋田県内で一番早く地ビール醸造を始めた醸造所である。東北を題材とした演劇を得意とする劇団わらび座の本拠地、たざわこ芸術村の中に醸造所とレストラン、それに「温泉ゆぽぽ」がある。温泉ゆぽぽでは宿泊もでき、温泉上がりに出来たての地ビールを飲むというビール好きにとってはこの上ない極楽体験もできる。田沢湖ビールではまた、全国の地ビール醸造所でも稀な、麦芽製造まで行える設備を持っており、他の地ビール醸造所からも麦芽づくりを請け負ったりしてもいる。アルト、ケルシュ、ダークラガー、ピルスナー、バイツェン、などドイツスタイルのビールがメインで、いずれもさすがの出来栄えである。併設のレストランではフレンチやイタリアンが味わえるが、同じ敷地内にある「お食事処ばっきゃ」では、地元の食材をふんだんに使った和食が楽しめる。また、秋田駅ビル「トピコ」内にも直営の「あきた海鮮食堂」（秋田市中通 7-2-1-3F、TEL018-889-3554、http://www.warabi.or.jp/kaisensyokudou/）があり、秋田で取れた新鮮な魚介類の料理が味わえる他、田沢湖ビールが飲み放題で一時間一〇五〇円と、これまたうらやましい価格設定となっている。

もう一つ、湖畔の杜ビール（仙北市田沢湖田沢字春山 37-5、TEL0187-58-0608、http://www.orae.net/）はその名の通り、田沢湖畔に醸造所兼レストランを構えている。湖畔の杜ビールは、他の二つの地ビール醸造所とは若干スタイルが違っている。日本の地ビールは大手との差別化を図るために、大手が手掛けないスタイルのビールを醸造するところが多いが、湖畔の杜ビールでは、「日本人は明治の頃からずっとピルスナーというビールだけを愛し、飲み続けてきた」という認識から、ピルスナーやあきたこまちを使ったラガーなど、大手のビールの愛好者にとっても馴染み深いビールをメインに醸造している。地ビールの味わいに馴染めないという人にとっても抵抗のない、すっきりした味わいのビールに仕上がっている。併設の「湖畔の杜レストランORAE」では、地元の旬の食材を使った料理が味わえる。特に、行者にんにくを使ったソーセージの人気が高い。眼前に田沢湖が広がり、景色も楽しめる。

これら秋田の地ビール三箇所を見ていていいなと思うのは、これら三箇所の地ビール醸造所がことあるごとに互いに協調しているということである。秋田県内で開催されるビール関係のイベントでは揃って出店してイベントを盛り上げている。また、秋田県総合食品研究所と協力して桜の木から採取した酵母を使ったビールを開発したり、ホップ由来のコラーゲンを壊さずに醸造する方法を開発したりと、秋田県内のビール文化を共に広げていこうという意思が随所に感じられる。こうした醸造所同士の距離感は、東北の他地域の地ビール醸造所にもぜひとも見習ってほしいところである。

また、田沢湖ビールは毎年、ビールの原料となる大麦、ホップ、水、酵母すべて秋田県産という「あきた麦酒 恵」を醸造し、あくらビールも秋田県大潟村の農家が栽培した二条大麦「小春二条」を使ったビール「ふたりがかり」を醸造するなど、地産地消を意識した地ビールを手掛けている。麦芽もホップも海外産という地ビール醸造所が多い中、これらは本当の意味で「地ビール」と言えるのではないだろうか。秋田に足を運んだ折にはぜひ、これらの地ビールを味わっていただきたいものである。

たざわこ芸術村では温泉上がりに出来たての地ビールが味わえる

『東北独立』　砂越豊　著
価格：1,260（税込み）

時間が経過すればするほど
『東北独立』という選択肢が
より現実的になってくる

河北新報広告掲載
2012.2.12
2012.3.13

あなたの著者制作、お手伝い致します！
電子新聞発行のお手伝いを致します！
お気軽にご相談ください。

『立ち上がれ、オジサン！』
砂越　豊　著

『もうひとつの構造改革』
砂越　豊　著

※電子新聞創刊特別値引
上記 2 冊ともに　1260 円⇒ 500 円（税込）

遊無有出版　YUMUYU Publishing
立川事業所 042-512-9833　本　社 042-562-3507
立川事業所 yumuyu@wj8.so-net.ne.jp　本　社 contact@yumuyu.com

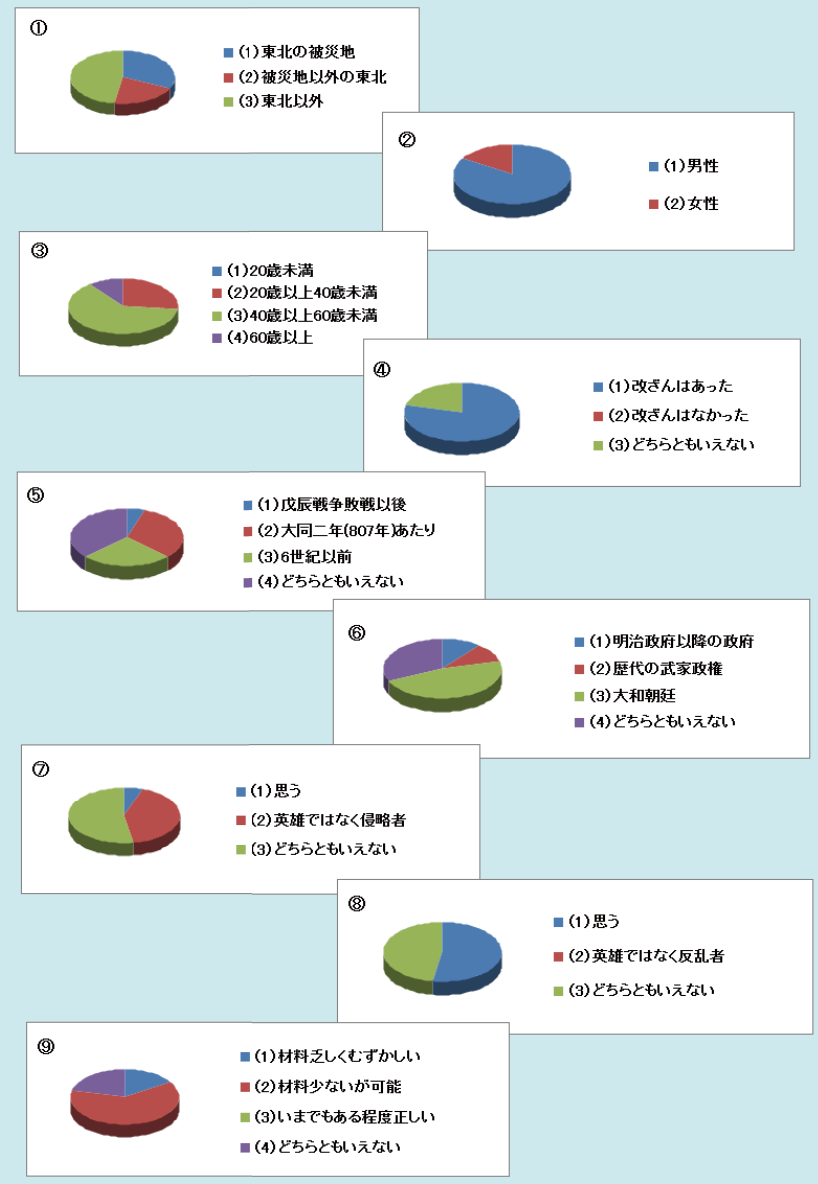
遊無有出版　検索

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.

第17号　ネットアンケート集計結果

東北古代史は故意に改ざんされたか?

No.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1)東北の被災地	6
	(2)被災地以外の東北	4
	(3)東北以外	9
②	性別	
	(1)男性	16
	(2)女性	3
③	年齢	
	(1)20歳未満	0
	(2)20歳以上40歳未満	5
	(3)40歳以上60歳未満	12
	(4)60歳以上	2
④	東北古代史に改ざんはあったか?	
	(1)改ざんはあった	15
	(2)改ざんはなかった	0
	(3)どちらともいえない	4
⑤	改ざんはどこであったか?	
	(1)戊辰戦争敗戦以後	1
	(2)大同二年(807年)あたり	6
	(3)6世紀以前	5
	(4)どちらともいえない	7
⑥	誰が改ざんしたか?	
	(1)明治政府以降の政府	2
	(2)歴代の武家政権	2
	(3)大和朝廷	9
	(4)どちらともいえない	6
⑦	坂上田村麻呂は東北の英雄か?	
	(1)思う	1
	(2)英雄ではなく侵略者	8
	(3)どちらともいえない	10
⑧	アテルイは東北の英雄か?	
	(1)思う	10
	(2)英雄ではなく反乱者	0
	(3)どちらともいえない	9
⑨	正しい東北古代史は可能か?	
	(1)材料乏しくむずかしい	3
	(2)材料少ないが可能	12
	(3)いまでもある程度正しい	0
	(4)どちらともいえない	4



今回のテーマは【東北古代史は故意に改ざんされたか?】という少し毛色の変わったアンケートでした。筆者が「東北の歴史を発掘するシリーズ」を連載するうち、特に東北古代史の改ざんの可能性について気になりだしたので、今回のアンケートにしてみたということです。回答者は19名。

「東北古代史に改ざんはあったか?」は、「改ざんはあった」が約78・9%。「改ざんはどこであったか?」は意見が大きく割れ、「大同二年(807年)あたり」が約31・2%、「6世紀以前」が約26・3%、「どちらともいえない」が約36・8%で、時代を特定することがむずかしいということのようです。「誰が改ざんしたか?」は、「大和朝廷」が約47・4%、「どちらともいえない」が約26・3%。「坂上田村麻呂は東北の英雄か?」は「英雄ではなく侵略者」が約42・1%、「どちらともいえない」が約52・6%。「アテルイは東北の英雄か?」については「思う」が約52・6%、「どちらともいえない」が約47・4%。この田村麻呂・アテルイ両者に関する質問の結果は意外でした。回答者の住所分布からの考察が別途必要なのかもしれません。「正しい東北古代史は可能か?」は「材料少ないが可能」が約63・2%。

歴史問題への回答結果はとても複雑な印象でした。

編集後記

先々月の「埋もれた東北文化を掘り起こす旅」のための北東北取材を終えてから、次はどこに行こうかと考えていたところ、突然新潟・長岡の「弥彦神社」が頭に浮かんできた。なぜだかよく分からないし、お導きなのかもしれないし、古代史に関係する本を読んでいるうちにここに惹きつけられていったのかもしれない。とにかくこの神社はこれまでの通説以上に、古代日本にとっては重要な神社のようである。

そういえば、今年はずいぶん多くの神社に参拝した。まず、初詣は高幡不動にある高幡不動尊、府中の大国魂神社、早稲田にある穴八幡神社、そしていま話題の伊勢神宮の内宮、外宮はもちろん、参拝者もめずらしい伊雑宮にも参拝した。夏には岩手・花巻の胡四王神社、秋には伊香保の榛名神社と富士山神社、そして遠野郷八幡宮、十和田神社と参拝してきた。

脈絡なく、手当たり次第に参拝してきた印象であるが、全部並べてみると、古代信仰、山岳信仰に引き寄せられている印象である。らせん状にそうした中心に吸い込まれていっている。

それとともに東北古代史、東北超古代史の探索にも大いに参考となる。いやそれどころか、探索そのものかもしれない。

革物屋（かわもんや）WEB完全リニューアル （WEBを移動しました）

http://www.birthday-press.com/ （バースデイプレス）→「小物のカテゴリー」→「レザー」

ミニバッグ Handy Second

持っていたくなる革バッグ。インナーバックとしてもお使いいただけるセカンドバック。革は薄めの柔らかなものを使用し、手触り感を重視いたしました。内側は耐久性のある光沢ナイロン製布を使用。

ミニバッグ Tiny Dice

用途ご自由の四角いケース。重量 40g と比較的軽量な製品ですので、携帯ストラップ用としてお使いいただくもよし、大きなバックに吊り下げていただくもよし。また、中に贈り物をつめてプレゼントケースとしてのご利用も一考かと。使い方は工夫次第。

ミニバッグ Tiny Log

用途ご自由のまるいケース。重量 40g と比較的軽量な製品ですので、携帯ストラップ用としてお使いいただくもよし、大きなバックに吊り下げていただくもよし。また、中に贈り物をつめてプレゼントケースとしてのご利用も一考かと。使い方は工夫次第。

モバイルバッグ Beans L

レザーでオールマイティ、両方のご満足。これまで、オールレザーでお手頃価格のモバイル端末用バックは多くありませんでした。また、各モバイル端末専用バックはありましたが、どの端末でも収納可能なオールマイティバックも多くはなかったようです。Beans L は、その両方でご満足いただけるバックです。

モバイルバッグ Beans S

レザーでオールマイティ、両方のご満足。これまで、オールレザーでお手頃価格のモバイル端末用バックは多くありませんでした。また、各モバイル端末専用バックはありましたが、どの端末でも収納可能なオールマイティバックも多くはなかったようです。Beans S は、その両方でご満足いただけるバックです。

モバイルバッグ Handy Pouch

あなたにお供するポーチ。持ち運び可能で、デスクやテーブルに置いて開け閉めできるポーチ。上下蓋部分の内側にスポンジを挟み込んでおりますので、モバイル端末機器の付属品の収納にもお使いいただけます。

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.